

## 13 研究指導プロセス概要

### 実験・応用心理学専攻／臨床・発達心理学専攻【博士前期（修士）課程】

時期	項目	内容・目的等	
入学前 (入学試験実施時)	指導教員決定	面接試験 *面接は志願者を2群に分けて、研究科担当教員の半数ずつ（各7名程度の面接官）で各群に対応 ・研究希望領域や研究計画案の確認 ・研究科委員会にて入学試験可否と指導教員の決定 (必要に応じて副指導教員を指名し、複数指導体制をとる場合もある) (臨床心理学領域は、志願者・合格者ともに多いので、教員負担を考慮して、のちの領域会議で指導教員を決定)	
1 年 次	4月上旬	研究科主催ガイダンス 個別履修指導	教員紹介および大学院での学修に関する説明、事務手続き等の説明 上記ガイダンスの後、指導教員による履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須
		(1年次、1年間を通じて) 指導教員を中心とする指導	研究科共通科目である「心理学論」「心理学研究法」「心理統計法」を履修しながら、指導教員が担当する「特論」や研究指導科目である「研究」を履修し、研究活動を進めさせる (テーマや研究の進行、論文の執筆方法についての確認) (指導教員による研究指導は、学生の状況や進行状況にあわせて授業時間外でも随時行われる)
	6月下旬	修士論文中間報告会への参加 修士課程2年次生が報告	今後の研究活動の参考・研究イメージの具体化 ・終了後には参加者による懇親会を開催して、さらに討議を続けるとともに、大学院生間の交流のみならず、教員との交流も深める
	7月～9月	修士論文テーマ決定	
	10月中旬	修士論文構想発表会	ポスター発表形式で、テーマと予備研究の進行状況を発表し、教員や他の大学院生からの意見を聞き、今後の参考に（公開）
2 年 次	4月上旬	研究科主催ガイダンス 個別履修指導・相談	1年次と同様。変更点を中心に簡略な説明、事務手続きの説明 上記ガイダンスの後、指導教員による履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 課程修了に向けたスケジュールの確認
		(2年次、1年間を通じて) 指導教員を中心とする指導	指導教員担当の研究指導科目である「研究」を履修し、修士論文完成に向けて研究活動をさらに進めさせる (指導教員による研究指導は、学生の状況や進行状況にあわせて授業時間外でも随時行われる)
	6月下旬	修士論文中間報告会	3日間にわたり、ポスター発表形式で、テーマと研究の進行状況を発表する（公開） 参加者：心理学研究科教員のみならず、学部教員（助教）にも参加を要請、その他、博士前期課程1年次生、博士後期課程学生が参加 ポスタープレゼンテーション、質疑・応答の後、改善等の指摘を受ける
	1月上旬	修士論文提出	定められた期間内に、修士論文および学位申請書類を大学院事務課に提出
	1月中旬	修士論文受理	1月の心理学研究科委員会にて論文の受理と学位審査委員会組織を決定（主査1名と副査2名を決定。主査は指導教員が務める）
	1月下旬	公聴会（論文審査会）	公開の発表形式で学位審査を行う 最終試験は口頭試問により実施（20分のプレゼンテーションと10分の質疑） 学位審査委員会での評価は、審査委員3名の合議により決定する
	2月中旬	合否決定	学位審査委員会が審査結果報告書を作成し、心理学研究科委員会に提出心理学研究科委員会が報告に基づき審議し、合否を決定する

※上記は予定であり、内容及び時期を変更する場合がある